

事業所における自己評価結果（公表）

別紙 3

公表：平成 31 年 3 月 27 日

事業所名：児童発達支援センター 恵光園こどもの家

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動によって部屋を変更する。	
	②	職員の配置数は適切である	○		保育士数は、適正配置。他に、療法士(作業、言語・音楽)が参加している。	今後も継続する。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		トイレの空間が狭く、近いづらい時もあるので、使い方の工夫が必要。	トイレのエリアは他にもたくさんあるので、気を配りながら使用していく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		物を置くスペースが少ないが、子どもの通る場所(前室)は、特にイスなどの置き方を工夫している。整理整頓は、十分に出来ている。	整理整頓は、今後も引き続き行う。
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		記録中や、記録後を含め、職員同士での情報共有に努めている。	今後も PDCA サイクルを継続していく。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者向けのアンケートを実施し次年度の改善点の参考にしている。	利用の満足度を図るためにも、アンケートを実施する。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		保護者の意向を確認し、自己評価を行っている。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		平成 27 年度に受けている。	今後も第三者評価を受ける予定。

適切な支援の提供	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修に積極的に参加する。	必要に応じて研修を行う。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		ポータージプログラムにて、出来ている課題と、今からの課題の整理をし、保護者のニーズに合わせている。	今後も継続する。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		ポータージ早期教育プログラムを使用している。時に、遠城寺式乳幼児分析的発達検査表を使用する。	今後も継続する。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		発達支援を3項目。家族支援を1もしくは2項目、地域支援は1項目を目安にしている。 具体的な支援については、その子ならではのやり方で具体的に記している。	今後も本人らしさがよく分かるような、個別支援計画を作るように継続していく。

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		保護者の要望の高い発達支援に答えられるように日々個人ファイルで確認している。	さらに、わかりやすい個別支援計画立案にしていく。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員連携で行っている。	今後も継続する。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動の振り返りを行っている。	柔軟で、多方面からの視点で発達を捉えていく。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成している	○		状況に応じた組み合わせが出来ている。	今後も継続する。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		園児登園前に確認。	今後も継続する。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日の記録時に記録を取りながら、その子の発達状況からモールステップを考え直している。	今後も継続する。

	⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録は徹底し、次の支援内容について話し合っている。	今後も継続する。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月ごとに必ず行うとともに、日々、発達していることは、チェックリストに記している。	今後も継続する。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が主に行い、担任も同席する。	今後も継続する。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		地域の保健師や、相談支援員との連携を行っている。	広域なので、それぞれの地域の保健師や教育委員会との連携を継続する。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		保護者を通じて、医療、保健、療育との連携を行っている。	今後も継続する。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		電話連絡等出来る体制を整えている。	今後も継続する。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		発達についての現状や、課題を記録に記し、情報を図っている。電話でも相談に応じる。	顔の見える移行支援に心掛けている。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		福岡県サポートノートを使用している。	今後も継続する。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		お互いの研修など、参加し合っている。	今後も継続する。

⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		近隣の保育園や小学校と交流している。	地域の公共の施設に出向く機会を作っている。
---	---	---	--	--------------------	-----------------------

保護者への説明責任等	㉑	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		豊築地区自立支援協議会子ども部会に所属している。	今後も継続する。
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		月に1回の保護者来園日や毎日の連絡帳で、日々の子どもの様子や発達の状況を知らせている。	今後も継続する。
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		具体的に出来る内容の提示をしている。	一人一人に応じた、家族への支援は、今後も継続する。
	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時は特に、一人ずつに時間をかけ行っている。	今後も継続する。
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		6か月の期間で発達した前領域の説明を行い、現在の発達の状況を伝えたくて、次の課題を一緒に考えている。	今後も継続する。
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的な面談に加え、日々の連絡帳での変化で電話や、必要に応じて、直接面談を行っている。	ニーズに迅速に対応していく。
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		父母の会は、行事ごとに協力してもらっている。保護者同士での話の場も提供している。	今後も継続する。

	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談内容に応じて、相談しやすいように、工夫している。また、状況に応じて、家庭訪問を行っている。	今後も継続する。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		半年に1回の園全体での広報誌と、月に1回のおたよりと毎日の連絡帳を活用している。	今後も継続する。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		シュレッダーや、鍵のかかるエリアの確保をしている。	今後も継続する。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		絵カードや写真カード等具体的に視覚化している。	今後も継続する。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		人形劇や、夏祭り等、地域の方にも利用しやすいように案内をしている。	今後も継続する。
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		職員への周知徹底を行い、マニュアルを保護者が閲覧できるようにしている。	来園日に直接閲覧する機会を作っているが、いつでも閲覧できるように案内する。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		さまざまな想定を行っている。	今後も継続する。
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		緊急時にダイアップを持ち出せるように、分かりやすく明記している。	今後も継続する。
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		医師の診断書を元に行っている。	厨房職員との連携を図る。

④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットについては、事業所会議の中で、視覚化している。	今後も継続する。
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		具体的に話しあえる中になる様に日々のコミュニケーションを図っている。	今後も継続する。
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		具体的に話しあえる中になる様に日々のコミュニケーションを図っている。	身体拘束については、契約書にも明記している。 今後も継続する。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。